

万葉集

之

万葉伊物之帖
全書奇歌

辰

二

土岐文庫
文庫17
W43
3

35

30

25

20

15

10

文庫 17
W43
3



和方系系集中之二

亦凡久望のくはふのころよゆぬう

赤くくぬきぬきよきよきよきよき

いふくくくくのおぬきつてきぬきと詞の

と下ーぬきぬき句と陽とつるおの

乃常の半かたへーぬきぬきのころよ

赤土お屋とくきぬきぬきぬきぬきぬき

露とぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

とらぬきのあやーぬきぬきぬきぬき

とらぬきのあやーぬきぬきぬきぬき

和方系系

羽澤文庫

ふしる

昭和六十年二月一日贈
土岐善彦氏寄

010185195142

一ふーのふざけ後もあめめん
 とつてくら作勢物終よえぬあふえん
 ちよ書置早よあつて昔のぬらひりあ
 こもつてりーみーい船系や
 半二ハ書置ち書置た書置のてまれり
 いふあつてまじり人いりかん
 出さつていふ書置ち書置つて半一りこのよの
 一いあつてつらつてたつらの種
 娘とまらんとして出さ置團よあつてり
 一娘いーあよハちの書置のた書置と

一いふあつてつらつてたつらの種
 娘とまらんとして出さ置團よあつてり
 一娘いーあよハちの書置のた書置と
 出さつていふ書置ち書置つて半一りこのよの
 いふあつてまじり人いりかん
 半二ハ書置ち書置た書置のてまれり
 こもつてりーみーい船系や
 ちよ書置早よあつて昔のぬらひりあ
 とつてくら作勢物終よえぬあふえん
 一ふーのふざけ後もあめめん

付よつては、
くさつよと、
て用むと、
わよ名の、
母よ平、
かちと、
罪つと、
よわく、
てあふ、

...

飼るら、
りのそ、
縮もあ、
初一、
去か、
つくと、
一き、
よつ、
よつ、
さつ、

...

ながりきりりて海にうはばきさあき
よつらよひくこつらよかちりふあさき
根がうもひくながり古今も機
わさるあよる下まよとよちうけし島
とらうとらふちの華がちさく機と
い機のおつらぬ麻のあながちさく
くこつらぬおつらぬながりいこ入
よちうけしつらう拾遺云
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり

おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり
おつらぬけんじのくちまのきり

是の内中よゆしふるものには月初子
乃日暮骨とりよ異るよゆしふるものには
祓のうしの母子よゆしふるものには
おがわいよゆしふるものには
めくむしふるものには
のりのりて年乃りよゆしふるものには
物よゆしふるものには
うらよゆしふるものには
まがわいよゆしふるものには
とまるものには

いのちよゆしふるものには
うてむしふるものには
くしかり成云まろ極の息まろ和とまろクク
中院まろ乃水まろ乃水まろ乃水まろ
乃りよゆしふるものには
吳娘まろ乃りよゆしふるものには
乃物まろ乃りよゆしふるものには
乃りよゆしふるものには
乃りよゆしふるものには
乃りよゆしふるものには
乃りよゆしふるものには
乃りよゆしふるものには

と見合ぬまじしむちなれに世にじり
しこののよももさるののうれと
かかしてひさうせ給ぬまじか
つせぬまじして次日老法師乃騰トウ
よういぬまじり杖ツヱよとてあてまらわて
中門のがとちよぬまじりてさの念
契ちりて見糸一ゆり老法師よと
まらわてゆわとPあけ給つとPを
まらもまら入る人もかうわらるとひあ
りよと居らしてあまらよひえ

いさる事のわあじとて南庭のひく
し乃らまら一せくいぬまじり
とさるせ給つ志り一もわぬまじり
て七十年りの志契ちよは信じてむと
つよニガ世喜ガ提ダとつたなゆわつるに
えうらるひ見糸とつまらわて後
いぬまじり一葉おちゆまじり
かこめてまらん乃心のもよて念仏
乃心も七年来乃がこなひまら
よがわゆらぬしむなひまらひ

りぬすちのたすかかりー
校よかーりてならくはら
ゆるーくしらとありはる
かかす事かかたすし
まうーわきくまぬまふ
志ーしらよぬし眉乃
て老うちまらよかり
まーてつーまか入く
も志うーぬれと
とせぬまじららる
ぬまらる

りぬすちのたすかかりー
校よかーりてならくはら
ゆるーくしらとありはる
かかす事かかたすし
まうーわきくまぬまふ
志ーしらよぬし眉乃
て老うちまらよかり
まーてつーまか入く
も志うーぬれと
とせぬまじららる
ぬまらる

111

うらうらうのま乃々まろくして
とれとらさかくゆしくおのさ
とをかやうきりうれとさうてなく
くろわよわとさ 獨ひとりささく
果八公うう乃御よまいぬ
まろくのうとらゆくららん
うううとら 莊ちゆう子し文ぶん曰い云ん何なに有ありや御ご中ちゆう里りか
まろく 蔭いん姑こ射しゃ山さんや 或ある曰い仙せん人じん住す也なり
竟さう道どう帝てい位い居ま姑こ射しゃ山さんけあよわい乃御
門かどと姑こ射しゃ山さんとらPのなりまゆくららん

といちくまてま
軍九 五京うわさけれま
まろく ちのま
天京やわわらけれいあ
猿さる放はなくまわさくま
なり月つきとらうかま
男おとこともいふ久ひさくま
らとらうらうらかり
凌しのがら
卒つひ 奈な良ら坂さか乃のは柏かしわのうら

中 予はまうくいも秘ちを人れ
い言或物説よ如^{とて}詠刺の夫ふなりあとき
ゆりのむねよとい葉初よの謗侮人のあ
とたり初よの乃むもよとたり一とふ
みよとこのの目柏よの思は柏とくをわ
か人乃よかたりたりらふこも柏がり
或云思よものよは他あり柏とくを
空一志たりとわいなり柏とゆげいあま
物^物寄方^方ありぬな^なあり一とて
確^つ言^り大^大言^言のじ^じ一^一指^さ津^津國^國乃^乃柏^柏よ出^出て

物一^一物^物や^や一^一ろ^ろさ^さの^の志^志と^とそ^そて
ゆの志^志の^のな^なあり^{あり}た^たれ^れの^の物^物と^とあ^あれ
り^りわ^わわ^われ^れ物^物と^とり^りみ^みな^なり^り志^志り^りと^と鹿^鹿
と^とり^りて^て徳^徳に^にか^かり^りふ^ふむ^むり^りあ^あ
中^中二^二も^も記^記も^も一^一ち^ちか^から^らの^のし^しわ^わて^ての^の志^志と^とあ^あれ^れ
よ^よと^とり^りの^のし^しわ^わて^ての^の志^志と^とあ^あれ^れ
よ^よと^とり^りの^のし^しわ^わて^ての^の志^志と^とあ^あれ^れ
て^てと^とり^りの^のし^しわ^わて^ての^の志^志と^とあ^あれ^れ
り^りと^とり^りの^のし^しわ^わて^ての^の志^志と^とあ^あれ^れ

1015147 111

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The characters are dark and clearly legible against the aged paper background.

わさしと麻とらふがたやわんまらわ
さとのやうなまゝなつかしきまゝ
さしとらふまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ
まじりのまゝなつかしきまゝ

とも新らむにけしむあや
 卒の物もしりふにせしかるまの
 ころのそむるはむじりむるむじり
 けのの廿乃片よがわて後よーり
 多よがわていなるたわへんく
 ながるむたははむむかこころ
 ともよもいむるむむか
 物もよひる本とつむかその門に
 乃名がわていむらんそ朝もし
 ころとむるむむか

物もよひ紀の算ちるむらむ
 ころとむるむむか
 是もよひるむらむらむらむらむ
 又朝もよひるむらむらむらむ
 或云物もよひるむらむらむらむ
 ころとむるむむか
 曆書集云天平勝安元年乃去二月
 於大内柏御家御食詰大史等時家
 大内け物もよひるむらむらむらむ
 或戸御るむらむらむらむらむ

飲飯がわ本は新がわいれとぬきて
飯と炊がわとま
卒六枕がわとよらのよもこる時を
よらと陸奥よわらあ乃名がわ
或人えられいよららがるよらよ
ゆららり耐きいよららら
い礮^{いっく}卒がわよららららららららら
がわられららららららららららら
ららららららららららららららら

卒七うらまのいよらららららら
ららららららららららららららら
ららららららららららららららら
みのららららららららららららら
がらららららららららららららら
の人もらららららららららららら
ららららららららららららららら
てうらまららららららららららら
ららららららららららららららら

ついでとよりちりふはあ聲の蝶とつあ事
ゆり聲とらつこつこつかりゆかり
さといおかたしきれともかいらなり
後撰云

うららしてなまうららら響の
じながるゝよき森にうらら
きこたまゆるりじたさむあち
ゆらきさあゆめゆらあてのねておゆと
かしらゆるりよらひさあゆめ
さうゆらけいりして枕とさゆらゆら

いなおちつらぬ一徳家好らうなりと
しあゆらうもあゆさあゆらふら
ゆといおあゆらうゆらゆらあゆの遠
さゆらうらうらあゆらあゆら
かむらうらなららとひんるあゆめの
うらうらうらうらうらうらあゆ
とゆらうらうらうらうらうらあ
ゆらあゆらのゆらうらあゆらう
あゆらうらうらうらあゆらあゆら
あゆらうらうらうらあゆらあゆら

いりて社とつらわぬれいなる百子こ
うりてくひやあるやまかへぬまを橋
といひぬくくはくくくくくくくくく
を後神の決ちひひひひひひひひひひ
とらちかひきり神にけ出神とがじり
りち或人けのちのちのちのちのちのち
よじりて神とやまてまつるまれ
くちかひなる人けのちの社の氏人
ましくくくく社ましくくくくくくく
えじりくくくくくくくくくくくくく

女のおりててきくやまていあつめり
終は針とつらくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
社のうちよくくくくくくくくくく
あちたれい橋乃山くくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

みづのまくりひ思ひ^{なま}
みづのまくりひひる月廿記云欲音と云
てより男女の志をわくから筆を
或中云ま為夫婦ともをわすはの
あよ

神代のあまのうき橋なほ
いづれすくみづのまくりひ
是の太の匡房^{くわいぼう}統^とは^は某^のわのりて
防内^{ぼうちう}のりひつりくろのりか
舞^ま送^{そう}る^る伊^い舞^ま舞^まる^るあまの浮橋の上

よて^よ舞^まとさ^さか^かり^りて^てさ^さら^らわ^わ流^{りゅう}ひ
よ^よ流^{りゅう}海^{かい}漢^{かん}を^をい^い流^{りゅう}つ^つり^りを^を舞^まの^のま^まに^にわ
志^し多^たり^りま^まる^る流^{りゅう}う^うて^て一^一内^内流^{りゅう}と^となる^る是
と^と名^な付^けて^て碓^{すい}波^は慮^{りょ}流^{りゅう}と^とい^いは^はさ^さり
らの^の神^{かみ}の^の流^{りゅう}よ^よ大^{たい}く^くり^りて^て青^{せい}島^{じま}夫^{つま}
婦^{つま}して^{して}國^{くに}よ^よみ^みと^とま^まあ^あぬ^ぬま^まつ^つか^かま^ま
と^とま^まあ^あつ^つひ^ひと^とま^まあ^あつ^つひ^ひと^とま^まあ^あつ^つひ^ひ
ま^まあ^あつ^つひ^ひと^とま^まあ^あつ^つひ^ひと^とま^まあ^あつ^つひ^ひ
卒^{そつ}に^にあ^あつ^つひ^ひと^とま^まあ^あつ^つひ^ひと^とま^まあ^あつ^つひ^ひ

是のわがら神の御孫のまがわがの鴨は
 似て真津をうらやううらやうつゝかき
 ぶつゝ鳴きいよわらまのりひいそい率
 富とうきり天照大神の孫ともいふ
 養出見そののわが天津彦火瓊杵尊
 がわが日記えひいあてそのそと海
 皇乃女豊玉姫とまゝと一はひし子
 うまんゝ一はひ時豊玉のあまうく我
 かつれら子うまじいそいそいそいそ
 ときもの一のあまのまがわらと一そい

うひはひ娘さうわなひひひひひひひ
 よんよなわらゝらてのあまうく我
 よんよとせううらうら海陸うひて
 うらうらぬゆるまがわらと一そいそ
 和らうらうらと一そいそいそいそ
 じようらんとらひくまよのらては子
 ようらて海のがらわなよとて海の
 うらとらてらわらわらまのそら
 うらうらわらわらわらわらわらわら
 卒あうらぬまのまがわらわらわらわら

天照大神御記

大

まらうまらあまらうまらうまらう
日本記云豊臣姫とのことなる
一と云ふことありてわかれとて又
つちや一と云ふことありてわかれと
おちてと云ふことありてわかれと
なりと云ふことありてわかれと
姫と云ふことありてわかれと
しと云ふことありてわかれと
おちてと云ふことありてわかれと
いありと云ふことありてわかれと

て後夷母のむ依姫と為妃と
神武天皇の父彦波瀲武鸕鷀草彥
不合尊也いそらうと云ふことあり
しと云ふことありてわかれと
かありと云ふことありてわかれと
いありと云ふことありてわかれと
幸あ久聖乃わまのさあらいんあま
と云ふことありてわかれと
言久らうと云ふことありてわかれと
かありと云ふことありてわかれと

日本記云豊臣姫とのことなる

て久うこつをゆあうこつあに神あし
と久うこつをゆあうこつあに神あし
年四半ぬがらけのぬまうく是こわあ
方よあまのふねよのうてとしくぬ
まうかあわうこつあに神あし
しあてうわうこつあに神あし
とをうけんけあぬのぬまうこつあ
がうこつあに神あし
しあてうわうこつあに神あし

とひこゆひてあまうこつあに神あし
はあうこつあに神あし
てのぬまうこつあに神あし
結吟うこつあに神あし
秋津別の名あうこつあに神あし
うあうこつあに神あし
よのあうこつあに神あし
め神あし
年四半ぬがらけのぬまうく是こわあ
方よあまのふねよのうてとしくぬ

けりよのゆゑに...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

とおちりさきさきすはなつき
 乃西つひきく矢河乃あよひも
 まりれとてはうりぬりなり
 よのささくもあ乃と根くら
 りちちちちよきそ矢河乃あよ
 りと張書なりいりさるさき
 音よさくうらみいりさるさき
 りゆかふりのちるさの常半織女と云
 の二人よあひぬりりくと夢中
 くらむさくくらむさくくらむさく

くらむさくくらむさくくらむさく
 まうのあふたあまの海乃つら
 といくちつと又いりせりひさ
 かりちとつとあつちちを捨たよ
 のあふたあまの海乃つら
 山のうらみあふたあまの海乃
 のあふたあまの海乃つら
 音をいりまよひさくさくさく
 よくちちちちちちちちちち
 草のあふたあまの海乃つら

和歌集

舟の檻くらきぬくもひりーたりー
 び入海のへー出ぬりともろとさなはと云
 こがり海船船港かきつりあふりーは海
 まりの津とさぬりありふりあなりの津
 まねとふらてとるちりけふ一人つ
 今く二人とふりてとるふかめぬぬ海
 平ん一して津海かりり若くして人
 とりふり海二一人と二人の津かり
 今くひとりぬりーりのぬらとふらり
 つたなてしてつらりてさいりー

やくもい尾乃符の矢のぬりー
 けのぬりぬゆよちりぬあさるあり
 矢形尾くもちりーりのぬらー日
 乃らん一りささるなり日白さるなり
 さるよぬらぬらぬらぬらぬらぬら
 十一ぬりぬりの標つけたりぬらぬら
 からさるてぬとさるくしててぬ
 ころちりぬらぬらぬらぬらぬらぬら
 とくちりぬはぬらぬらのぬらぬらぬらぬら
 ころぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら

わるき事の今に書かぬ入ぬれん
 或人云わらぬいしてたし〜ぬるぬる
 びれともなう〜く〜わて〜も〜入事
 とのわら〜き事のゆ〜ら〜ら〜ら
 てぬわ〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 よ〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 う〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 ぬわ〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら

多とら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 人なり〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 林あり〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 ぬわ〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 卒丸〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 う〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 わら物〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 ぬわ〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 し〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら
 し〜ら〜ら〜ら〜らぬわ〜ら〜ら

物りてくくありてけり他さむる
 神文もさしつかへし書よも合意
 とうさくさの中よ公合意歌よれ道
 かり物よりひたりうーぬれいさ
 うー人のまさうー人いさむかめま
 よん現人いさむ
 本 神さひのさくふあまふあまの
 ころよのさくさて妹とさぬゆ
 くれい神社よめとさくさくれか
 めとさくさ本かたさひさるのれ
 神さ

とてくれとのむかちか神文のま
 けい今もあり和歌歌うのま
 神さくさあつあつぬれい
 うさくさあつあつい
 源氏乃あよ
 さもさくさくさくさあつあつ
 うさくさあつあつい
 是あもあつあつあつあつ
 七 繪造川さひ柳あつあつ
 かりさくさくさくさあつあつ

らんいしー 帝乃丁志かちくろんわ
 一ののむよりりてぬ甲よまよし
 ゆるりらつちーくろしあつちあ
 かる柳のあよがじくよまいあ
 かのちあほろし柳のあろしー
 せぬら柳がち柳の丁志くろし
 むれぬま根こいぬとあまよ
 ちろくまろくろまあろしあ
 ーろしかち柳のあろし
 ーろしあろしあろしあろし

といろがちの柳の丁志くろし
 むろろのいしーろまろしあ
 ろろかちろまよとあまろしあ
 乃出調ぬまろしーろろしあ
 ろれよのろまろしあろしあ
 ろろかちろろしあろしあろし
 むろのあろまろしあろしあ
 むろろろしあろしあろしあ
 甲金よろろしあろしあろし
 ーろしあろしあろしあろし

色紙集 中 六 二

七六

ひのちい
くまのしほりて國のしらこ

或はきつむくのむかやういふもくち
一ふんちちならまよひのしらこ
さしちちむのしらこくち
部くむのしらこくち
りふのしらこくち
りふのしらこくち
らふのしらこくち
らふのしらこくち
らふのしらこくち
らふのしらこくち
らふのしらこくち
らふのしらこくち

まらあめれん綿糸くち
すういへん糸くち
ていしして糸くち
りふくち糸くち
綿糸糸くち
糸くち糸くち

綿糸糸くち
糸くち糸くち
糸くち糸くち
糸くち糸くち
糸くち糸くち
糸くち糸くち

細布のきりぎりすのきりぎりすの細布の
かきよめりきりぎりすのきりぎりすの
かきよめりきりぎりすのきりぎりすの
ありぬきりぎりすのきりぎりすの

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

和歌集系集中之三

幸三 筑紫乃仲弓のくもえそりれ

おのしむらひとまをさうくく
仲弓の鏡の仲弓のくもえそりれ
雄畧天皇乃一わいけいよは筑紫乃
うせくぬい仲弓とあしてぬいひく
まらやいよかやうさうさうい
こまわて地とまのくして本乃く
ゆわとわいさうと地とまのわてい
うくかひらうさうさうさうい

あがりぬまらちとていそよのあよ
うつていそゆわこりくねいれ
くわじいあぬらわえて
いれいそんこりふらわ
徳固の徳集よるこり武統曰
唐よこぬあこりよあぬ
わちて徳集の人とてくわ國
乃人大よんかきく時よ大よ
りわつあく回方とわとて
をわとやこりいひ終る鬼力

つて帝よこぬあちて今わ
後いなくまよ民よまのりわぬ
てまらんこりしてまよの終を
一もぬてまらていそいそ
いまわちかこりいそいそ
いのまらちこりいそいそ
いのむのうわわわわわ
つわらこりいそいそいそ
らのあちいこりいそいそ
やまこりいそいそいそ

しんじりぬわら楊の雲の
花おちふらんらんらんらん

曾丹弁

鶺鴒のらゆる楊のまへ
くぬしらの中よおのれくらん
の楊のくくよあせがたれいふ
まゆわりのくよあせがたれいふ
くぬきくよあせがたれいふ
くぬきくよあせがたれいふ
くぬきくよあせがたれいふ

くぬき

昔々小車こぐるまの綿わたのひよ
あまの福のくぬきくぬき
とらるぬきくぬきくぬき
くぬきくぬきくぬきくぬき
くぬきくぬきくぬきくぬき
くぬきくぬきくぬきくぬき
くぬきくぬきくぬきくぬき

うきやうきなるものなりしをの報恩
よこせりしうきては伝ひよるるをよ
きとてしうきなるもなきなりを或
後よきしりし大なる團よ徳あるなりを
ふらけしむとておちりしをいひしは
よとてせりしもの女のみよは後あつち
つてよ喜むべのなりよめとせりし
つてし徳あるのりつるべき出てあそ
ひするをいひしものいひかたなき
しるるもいひてかたなきなりしを

徳あるものなりしをいひしは
しるるもいひてかたなきなりしを
よとてせりしもの女のみよは後
つてよ喜むべのなりよめとせりし
つてし徳あるのりつるべき出てあそ
ひするをいひしものいひかたなき
しるるもいひてかたなきなりしを
よとてせりしもの女のみよは後
つてよ喜むべのなりよめとせりし
つてし徳あるのりつるべき出てあそ
ひするをいひしものいひかたなき
しるるもいひてかたなきなりしを

さうらう——法師ほふしよかれとつあやちて
がわぬよえそ半はんとかなうじ法師と
らつぎんもあつ——こあつかにじ種
とよとあいのつあさするやうしてめて
かこひこいなるこもきてくち
よさうさうのおん法師ほふしせよ護まもりか
とらつぎんよらつぎんとのぬき
候まはりよ出ぬま時ときひめらみあわれ
てならんぬとこのくさるす
よしとぬとらつぎんあひひき

とさく候まはり——あつかなるいさ
てさけぬさそのまはらうまよま
うとれとさうてうくろむとが
むとく極ごく樂らくとねうしてはまぬ
中なかのよも後のごの考かう養やうよひ其その井いと道みち守まも
師しは徳とく——あつしぬ盤ばんよのあつて
えまうつぬぬらなうまよあひひ
うとくぬとつちりしてあつあつ
のさうしてひられい亡なるるかたは生
とさうのうとらつぎんあつひ

金葉集卷之三

着して惣々よゆさむじとせしふ
赤方便としてうらうら入るり
がわとびんわたりはるる行基并
の代わたり行基の文殊の五代りり
まうくぬ丸の元真ちの性生人智光
がわとびんわ

七九うく花よむじつこのあら
身よらぬつこののらるるもさ
いぬつこの顔色惱色大和物波よ生因
の女乃初よえ人のたさけとよらぬ

ことまらぬやいさう一又或の
をさうわいさうとわらふいぬつこの
つたつとつち或顔惱之両字と款
云煩ハ嗽身悩ハ嗽心文選目心不耐煩宦
鞅掌又日或日清虚以婉紉每除煩
以去監文集日劳貴因之とつた字と
いぬつこのよらぬ

半は殿いじつととらりさういぬの
とらりさういぬのつちわして
或物波よえとらりさういぬの

又いふものぬきしらふしあつたれ
いづの木の葉こしふくしむし葉の
まつちりりち屋よむのしむては
くらぢぢれいふありち武後と和名
いふらふしむらふちむらふちむら
又屋よむ新葉かこしむらふちむら
つらむらむらむらむらむらむらむら
いふむらむらむらむらむらむらむら
又とむらむらむらむらむらむらむら
らむらむらむらむらむらむらむら
らむらむらむらむらむらむらむら

とむらむらむらむらむらむらむら
半一まむらむらむらむらむらむら
いふむらむらむらむらむらむらむら
まむらむらむらむらむらむらむら
よむらむらむらむらむらむらむら
月令五枚のむらむらむらむらむら
りち或人云初乃秋のはむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむら
てむらむらむらむらむらむらむら

かゝるうまをよめたりてかゝるいふれと
くさるゝととととととととととととととと
とわもてとらあゝ乃わぬといぬ
かゝるいふかち

まよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とのらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

或縁とまよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とわちうひてゝあまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝ麻のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝ

半二ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
大和物終よる牛田の海よとちかゝる

母の病もまじりて世を去る事
しるしにわれは國はのこるはあはれ
十三海社一のよめありしかたは家
いしむかむりせむをさしむ
海社とついでに後くはPめあはれ
いふ神樂乃こなむらりてにますら
事とまのつらまはらむるにむして
夜すらの時清い海くしてすらすら
海影よさうまさと雲とあててくれ
と柱にしての竹と柵よるて

られよ神供とせむらと海社とのふ
なりとて海影よまのまやうあふ
なりとの作法いふ神系の禱よまぬ
すいれらるるの禱よ秘とら事なり
九割之神系に神代よりありてかれ
くうくうくうくうくうくうくうの
かれいあわくの人のうらひをむら
むらむらむらむらむらむらむらむら
よむらむらむらむらむらむらむら
よむらむらむらむらむらむらむら
よむらむらむらむらむらむらむら

いしむたやうにむかしはとん
かき草かきやうなむらじりらうり
れしむらじり
て
川かきむらじりむらじり
れ
余のがらむな記よるむらじり
鳥さのーむらじり
天照大神のむらじり
とらじり

いしむたやうにむかしはとん
かき草かきやうなむらじりらうり
れしむらじり
て
川かきむらじりむらじり
れ
余のがらむな記よるむらじり
鳥さのーむらじり
天照大神のむらじり
とらじり

今六日川のほまう一の半

日中記云々ふのちのこくく夫らり
出雲國鯨之海といゆる所の哭匠
乃く云わちあつひのよ一人のきき
きあつ中よお女とよきくくく
くなくその同云は何とて哭とる
こめくていつく我のめおの神かり
かしく脚摩乳手摩乳と号とけ
お女の家じとめかり縮田水と号と
こくくの家子八人わちとと毎半よ

八波の大地のれのみここのお女を
きんとしておよ哭とくつお女と
とれよめてまうじやるをよめてよ
つじさひつよお女と湯津の尻
横よちかたしてぬくよよ
父母よて八醜酒とさうあひよれ
てしよよ大蛇来すつり頭各八わち
お柏やがらひひりあつ八の坐八のそ
るよんひりりあつひよ急ひて頭
各二のさうあひよ入飲解て

ねまの時にさして十束の細とあさ
 て蛇とつづるまをさめて尾よとさち
 てはささのしののし^いて^いて^いて^いて^い
 出物んとさるに中よ一細あつらん津細
 びちあいつい^いて^いて^いて^いて^いて^いて^い
 名天怒大神よ上軸とくこの細とさ
 天乃村まるとつふ蛇のうまづのひ
 雲氣のあつらんゆんかり後よひさみ
^{カサノ}雅^{ツノ}弼とさつきて相武を東持の時
 の七大神まるとつらの細とあまらうら

てくまの箱ふお模^{のた}固^{のた}そ神火の歌
 よあひてこのきんととりてさあどかこ
 てまわるとゆるゆんかり今^{わづらひ}狭^{のり}田社
 よあちさるの天乃十束細とさ天の細
 斬とらふ大蛇とさちちとつふおちち
 今さすのさつあはちこのね斬とらふ
 い或説は蛇とさちちの海利細がわ
 ちまのうらまはるさくさくさくさ
 じんかりのまをなむとあまのこさ
 なくもてまするゆらて湯根とさ

とりかちしはまうしとら御系祓の歌え
 湯とら引こますりこしとんりあははく
 神のぬしはなりあまのやらな
 とりあうしとら新妻郡のの時帝
 のいむらぬらよしとてのぬまりく
 のうらなうくくあぬまぬれとこ
 きこのの養とりあうれいさか門太
 符の抄物よええぬち又湯津乃
 養と右記後拾遺のうらう記よも
 くああうらよももあうらあひ

夕日小蛇よむせうしとらぬいころ
 けまうしとらあしとらあつら
 よてけうしとら月本記よも醒女よ
 ようらてよらあのみ^{カハ}玄術よもらよ
 ちつまうしとらあ出くうらまうく
 を時しとらあひしとらてうらあぬ
 とらひしとらああ志とらあ鬼のふ
 ながさうしとらあうくぬてまうらとく
 じとらあうらうしとらあよ新妻の
 養とあしとらああ今の中の人ま

じうーううめーいーいふおのめつこ
 とぬきんさおひうけおあをん
 わるぬのぬのねそてゆよりぬり
 ーそー月とあうかろい葛藤の
 冠とふいぬうらうらうらうらうら
 よろあをんれーわあううよとああ
 草とくうあながう古物流よりきち
 卒ぬのうーいーいぬんと約箱よ
 ーるーううあけながり果あく
 けあーいー乃物流よあわあーの

非ともかーこのあおのいんよん
 ーらーうてーとあわーとあわ
 よあうながうらよあわーとあわ
 ー唐よー婦あひあひ
 ーまじながあかーいーい
 ーきーいよよのぬよれ
 ー武昌のあらまてとらあ
 のゆーとてーれーあ
 ながりうら子とあひて
 ー死よらに化ーて

色紙集中之三

十一

てくらの事も、ちかめるとて
矢の海よ、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて

よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて

よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて
よめちかめるとて、ちかめるとて

島崎藤村集

三三

~~~~~  
うらうらわののののののののののの  
くくくくくくくくくくくくくくくく  
がががががががががががががががが  
なやややややややややややややや  
ううううううううううううううう  
うんんんんんんんんんんんんんんん  
わわわわわわわわわわわわわわわわわ  
ててててててててててててててて  
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

ててててての縮よとくくくくくくく  
ううううううううううううううう  
九十九ののののののののののの  
いいいいいいいいいいいいいいい  
ののののののののののののののの  
の果よののののののののののののの  
とととととととととととととととと  
みみみみみみみみみみみみみみみ  
ううううううううううううううう

後

後



よりり月日記より恩頼より録す  
のり

九十六 我病のこころなほあはれなるの  
きこしはきかたきしむなよわゆる  
うれい侍路方御紙のうさなかなむくよ  
くろくろのひがわらわめかたすいんきん  
かてくろくろひななかりくろくろくろくろ  
くろくろのひがわらわめかたすいんきん  
病とよみては又家こころえ事ら  
くろくろくろくろくろくろくろくろの事

がれいれんはようくろくろくろくろくろ  
尸人ともわらわめくろくろくろくろくろ  
え銅たりせはれくろくろくろくろ  
卒七百とせは一年もくろくろくろくろ

これとくろくろくろくろくろくろ  
是しつせ物くろくろくろくろくろ  
廿とあひくろくろくろくろくろくろ  
ゆろくろくろくろくろくろくろくろ  
らんがところの家はくろくろくろくろ  
くろくろくろくろくろくろくろくろ

ういかり古物類よろし柿のむら  
あといさりのあまものあつりひく  
年ふぬいらじののらうんとつひり  
と徳の成さきとつふ鳴ハ平一  
とつふ蜂ハ八十とらとつふ蜂ハ四  
らもとつひてらものくくお牛のあ  
おとあつひてらとつひ百年の年  
あつふらつひてらとつひお牛は付  
てしつふらつひてらとつひお牛は付  
つひてらつひの年のつひてらつひ

がれいめいせつふらつひてらつひ  
がら武えらつひてらつひてらつひ  
の字として海老と同物類  
あつふらつひてらつひてらつひ  
つれがらつひてらつひてらつひ  
あつふらつひてらつひてらつひ  
神なつひてらつひてらつひてらつひ  
てらつひてらつひてらつひてらつひ  
つひてらつひてらつひてらつひ  
あつふらつひてらつひてらつひ

ういかり古物類

ういかり古物類

年のあはれわくたれん大なるがら  
 とつらちてそ中よらふたをり  
 とつらちてそ中よらふたをり  
 鏡よまのその甘男のいとあま  
 かちくしそ中よらふたをり  
 たりなくとつらちてそ中よらふた  
 うまのまうとつらちてそ中よらふた  
 うまのまうとつらちてそ中よらふた  
 神のはちまのまうとつらちてそ中  
 りれそ中よらふたをり

神のらひのまうとつらちてそ中  
 つらちてそ中よらふたをり  
 奈八の山のまうとつらちてそ中  
 めのまうとつらちてそ中よらふた  
 伴勢物物とつらちてそ中よらふた  
 わのまうとつらちてそ中よらふた  
 のつらちてそ中よらふたをり  
 とつらちてそ中よらふたをり  
 てのつらちてそ中よらふたをり  
 とつらちてそ中よらふたをり

うきあひののじつらむながわらじ  
かよせしてよりあや井のい井堤  
とらむ

卒九みりのぬのじのわもひさ  
えりしひきりりりりりりりり  
俵方物終え武苑園はこりりりり  
とらむあやあやあやあやあやあや  
らららららららららららららら  
とらむしりりりりりりりりりり  
のじりりりりりりりりりりりり

の字あもの字いぬき音の字なれは通  
てろらなりぬぬのじのわらり東園  
の老いりりりりりりりりりり  
記しりりりりりりりりりりりり  
十り卒あやあやあやあやあやあや  
し今案がらりりりりりりりりり  
六枚よも厚の款よあ  
百 我意のいりりりりりりりり  
まりりりりりりりりりりりり  
いりりりりりりりりりりりり





多うよもろくろりた今集よ  
 りとわらていひしはひじんまの  
 かりのこりまとうりてえり  
 是に夜海姫のうらみのわ町ふのま  
 とやうてよめりなりわうの半た  
 いさからまそめりさうりかきれとも  
 かりくもわりいゆきさういゆきて  
 人まのまわりをたのま 新一着落か  
 百七まうりのまわおほくま  
 是ののめりいさかきかきりて

是に世能くあがりまうねん海とい  
 ろんとてまうりてきまめま  
 一の白櫻がわりきりてぬと  
 映り共なりまうののまなりわ  
 百八つあも又じまの貝を吹つあれ  
 起つらののめりらつさわん  
 うれい毒深うあがり麻手耶経よあり  
 といまありぬと一の梅陀舞る半  
 といひていさかきめりけりれと  
 かりて食丁なりわりてとま

...

...

むらさきよきまらして死する事  
のちかしこおのりよぬして  
羊のおもひ

百九むらさきよの事

らんはしなちひるひのた  
きとよひのちひるひのた  
ぬくひのちひるひのた  
おのちひるひのた  
かんよのちひるひのた  
らんはしなちひるひのた

ひますくらひるひのた

おのちひるひのた

きんを世のちひるひのた

かあひるひのた

百十ねらひのた

よよあふひのた

らんはしなちひるひのた

つよ半の梅炭經之文也

よんのちひるひのた

らんはしなちひるひのた



かんはるまのしつらんはらまのしらあ  
 とくちつらんれいんたよの船とま  
 うよの夫がらねとわびてらん  
 とらんらんれいんたよの根と白黒  
 黒黒のうりくせくしんせんと  
 とてのあつじとせいのひかりと  
 穴のまわらうくしんたがら鯉の地  
 獄がわおむつらんしんたがらわい  
 せよはらんれいんたがらしんたがら  
 月がわらうくしんたがら根の

根がら二黒の黒の月日がら  
 ゐんたがらとまがら  
 とくちつらんれいんたよの根と白黒  
 とらんらんれいんたよの根と白黒  
 二黒の月日は  
 百上とつらんれいんたよの根と  
 うるまもまららんれいんたよの根  
 けいの意総乃中ねあ使の時車は  
 流よりよ的とらんれいんたよの根

色部

からり〜ゆる〜として和泉武新のよあ  
れあながち〜と〜十列乃〜がわ  
くの海もま〜し〜白り〜のれと  
〜し〜し〜し〜のちまは  
〜ち〜ち〜本のちり〜ちり〜が  
〜が〜ち〜ち〜し〜し〜なれ  
〜ち〜ち〜ち〜ち〜し〜し〜ち  
的のちり〜ち〜ち〜し〜し〜ち  
〜と〜ち〜ち〜ち〜し〜し〜ち  
〜と〜ち〜ち〜ち〜し〜し〜ち

〜ち〜ち〜ち〜ち〜し〜し〜ち  
〜と〜ち〜ち〜ち〜し〜し〜ち  
加茂廿乃集よもす〜と〜月日  
〜と〜人よ〜のち〜し〜ち〜ち  
望月約〜と〜年〜ちり〜のち〜ち  
ま〜し〜し〜し〜日〜記よ〜ち〜  
百十二〜ち〜ち〜<sup>わか</sup>標の底の〜し〜し  
〜し〜し〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち  
標〜し〜し〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち  
〜ち〜し〜し〜し〜し〜し〜し

和泉武新のよあ

和泉武新

あまのわのなまらりつみかあけいふと和  
泉式部保昌志しきしてよめる人  
百三十一のこゑをくひりかひれ  
志よわりそののりあしやあうじ  
康平三年三月十九日廿念の一  
とて國ふの名とありせ給ひたるに  
お模りよめりうさかちあつくの森  
ハ尾張の國よあちじし書まはん  
とてあつひのひさなるいぬのあは  
ゆさけてあひひさすして死よまら

うれよちりてありての森と名つけ  
たりとてその國とあつあつとあ  
狭とてなる尾張と名つけ  
があつち

